

# 延浄寺だより

## 平成26年 秋彼岸

FAX 03・3326・7337  
03・3326・2797  
03・3326・5037



住職 網代 正孝

03-3326-7337

### お彼岸は

9月20日から26日

### ご先祖に感謝する一週間

#### 合同法要は

9月23日(お中日)

11時〜12時30分

ご先祖は阿弥陀様の光の中で私達を支えてくれています。まず阿弥陀様に合掌し、次は「私がお世話になった故人の「忘れ形見」のお墓に、お世話になった数々を想い出しお参りをします。

合同法要は23日(お中日)午前11時から12時30分まで本堂で皆様と阿弥陀様のお勤めをします。

### 知っておきたい介護のあれこれ

向陽介護システムズ代表 廣瀬豊邦氏



読経の後、昨年に引き続き、向陽介護システムズ、廣瀬豊邦代表から、介護を受けるための手続きを中心に、介護の実態のお話を頂きます。

「介護の現場、保険の扱い」がかなり変わってきているそうです。誰しも介護保険の世話にはなりたくない、ピンピンコロリで逝きたいと願っています。そうは上手くいかないかもしれません。「かもしれない」可能性はだれでも持っているわけですが、現実はどうなっているのか、知っておく方が心強いわけです。

昨年のお話を、また聞きたいとの声も多いので廣瀬講師にこれだけは知っておきたい大切な部分のお話をさせて頂きます。お檀家のお知り合いで聞いてみたい方がおいでしたら、お気軽にお誘いください。

時間の流れは

11時 住職挨拶

11時15分から45分 阿弥陀様のお勤め

11時45分から12時30分

「知っておきたい介護のあれこれ」

### 車で来られる方

駐車場が狭いので、同乗者を寺で降ろした後、駅周辺の有料を利用された方がよいかもしれません。(延浄寺付近のコインパーキング地図参照)

### バスの利用

#### 深大寺行きバスで

2つめの西つつじヶ丘1丁目下車3分 このバスは5〜6分間隔で出ています。

#### 杏林大学病院行きのミニバス

当寺を過ぎて、中西下車、50m戻る このバスは毎時15分・45分発 帰りは当寺から1000m駅方向へもどる。つつじヶ丘公園西口から料金はいずれも210円

### お彼岸特集・寺の宣伝・話題づくり

### 新たな発想 お墓のアイデア

お檀家の方には直接関係ないのではと思いますが、次のようなことを考えています。週刊文春9月19日発売に広告を載せましたので、再度、お知らせすることになりました。

### 延浄寺の新しい試み

#### それは散骨と忘れ形見

#### (手元供養・手元安置)

お墓をお持ちでない方が、ご自分の為に

新たにお墓を購入しても、将来無縁になつてしまふのではないか、この心配はどなたでもあります。延浄寺は88年前に築地から移転してきましたが、100年前の「先祖のお骨」のあるお墓はほとんどありません。

百年後に「貴方」をお参りする人は？ お墓はご先祖をお参りするところではないようです。

先祖代々にお参りしたいのなら、ご先祖は阿弥陀の光の中ですから、お墓ではなく阿弥陀様にお参りすることが正しいのです。

お墓はご自分が入るところです。ところが後をみる方がいない場合「新たにお墓を造ることもないのではないか」と思いながら、とりあえず自分が入るお墓を考えてみました。そして最近皆さんにお話しをしています。(と言っても新たな完成墓地を造り紹介もしています。)



### お墓参りの意味

もう一度お墓参りの意味を考えてみます。以前お骨は故人の「忘れ形見」であると書いたことがあります。

お墓はお世話になった方の「忘れ形見」を保管しているところですから、お墓参りは「生前中はいろいろお世話になりました」と感謝の触れ合いを深めるところなのです。

ですから、その故人とご縁のある人がいなくなったら、墓参りに来る方もいなくなります。そうであれば、昔のお骨は早く土に還すほうがよいのです。

もっともこれは当たり前のことで、浄土真宗では墓内に散骨するのが正しい埋葬方法でした。

### 散骨のすすめ

この考えで「寺で散骨のお墓」を造り、初めから散骨にする。みんなが一緒に入る大きな散骨のお墓を三年前に2ヶ所造りました。

宣伝はしていませんが、口コミで利用される方が少しずつ増えてきました。

もちろん散骨すると元に戻すことではできません。そのことに少し抵抗があるとの声で、今年からほんの少し形見のお骨を残しお渡しする(手元供養)も始めています。供養という言葉は浄土真宗では使いませんが、良い言葉を探しながらとりあえず手元供養を使います。

こう考えるとお骨は散骨でも良いのではないかと、新しいアイデアが浮かびます。

当寺では30年前に合祀性の墓「やすらぎの墓」を造りました。今は9ヶ所あります。

す。この一年間で「やすらぎの墓」よりも利用件数(15件)の多いのが寺の散骨のお墓です。

生前に約束しておき、当寺で送儀をもち(或いはお檀家の紹介であれば、またよく知っている方ならば葬儀後も可にしてもいいです)お骨をお持ちになれば延浄寺の「散骨の墓」に散骨できます。(送儀とは葬儀を工夫したものです)

散骨墓には墓誌はありません。家族が将来法事等で寺との縁を持ちたい方は、法名を付けることもあります。散骨だけの場合は付けません。

### 早く自然に還る散骨と忘れ形見

#### (手元供養・手元安置)

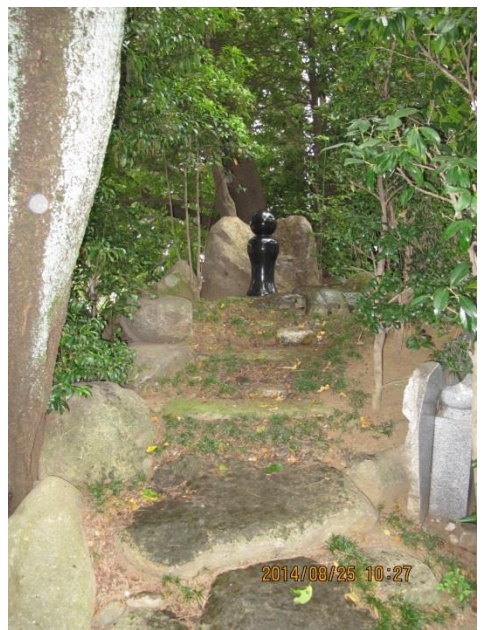
今年度から宣伝広報にも力を入れなくてはと思い、再度より詳しく説明いたします。2ヶ所ある中の一つは墓地に下る階段右側の「桜の樹」の下にあります。ここは香炉も花立てもない、早く自然に還るための散骨墓地です。

もうひとつはコンクリートの塀の中にある「俱会一処」の墓で、ここには香炉も花立てもありますが、墓誌はありません。いずれの散骨にも希望者はお骨を「忘れ形見」としてほんの少し持ち帰ることが出来ます。

ここを利用されると、お墓の必要がなくなるわけですが、持ち帰った忘れ形見は縁がなくなれば、お寺で散骨すればよいことになっています。

### 3年たった今、現状はどうなっているか

ご自分の入るお墓の選択が多くなったことですが、あまり発想が新しいと利用者は増えないようです。



「桜の樹木」の下は、今のところ、ほとんど利用者がおりません。地方のお墓を整理して、ほんの少しお墓の土を持ってこられた方と、私の小学校時代のクラスメイトご夫婦(もちろんお元気で)そして最近契約されたご夫婦だけです。

私の気持ちとしては、この墓地は花立ても香炉もないので、法事も墓参りもしなくてもよい、葬儀もいらぬ、そんな考えの方の墓になるのではとおもいます。契約時お布施は頂きますが、経済的に問題がある場合、自宅にお骨があり困っている場合、様々な社会問題と絡んでいる場合、寺としての宗教活動の位置づけ等、まして葬儀や法事をしないとなると、今後の課題はかなりあります。

「おれが死んだら葬儀も法事もいらぬ。早く自然に還りたい」そんな方はこれから多くなるでしょう。この方たちが阿弥陀様の光の中に入っていくのだと共感すれば浄土真宗としての意味合いがで、 「桜の樹」の木の散骨に大きな問題はなくなりません。

ただし基本的なことは「生きているときに」「桜の樹」の下に入りたいと約束して頂くことです。亡くなってから持ち込まれても「骨捨て場」になってしまいます。

### 「俱会一処」は利用が多い

一方の「俱会一処」の散骨は、檀家として浄土真宗の宗教行事で寺とつながれば、お骨になってからでも受け入れていきます。

「俱会一処」の墓は以前からある「寺の墓」やすらぎより利用者は多くなっています。昨年は15件でした。ほとんどの方は墓参りに来られます。



### 経費がいくらかは、

「俱会一処」の場合  
今までは20万円前後でしたが、散骨布施は、ご門徒であれば一体10万円、料金の幅は御布施です。状況により額が決められます。

\*すでにお骨になっている場合は寺に相談し寺の判断で決めます。

### 「桜の樹の下」の場合

生前に契約する時、布施を頂きます。葬儀も法事もしない火葬場からもどりと散骨するような場合は手元供養も含めて30万円程度の布施を頂くことにしております。布施ですから額は定かではありません。安く済ませるといふ発想でもありません。その都度相談によって決めます。

忘れ形見(手元供養)



散骨時に少しお骨を入れる容器です。家に持ち帰り、あるいは手元に置きたい方に用意しています。(年内3万円)  
側面に、名前、法名、行年、没年月日を記すこともできます。形見としての役目を終えた場合は、散骨します。

最後の日を待つ

心の落ち着きは

どうしてなのだろう

入院中のIさんを訪ねる

末期子宮がんのIさんの嫁さんから葬儀の相談電話があった。ホスピス病棟に移ったけど、私の葬儀をどのようにするのか、場所・葬儀社・経費など本人が気にしてい

るといふ。寺に電話で相談しろと言っている。大体のところを話したが、出来ればIさんは私に会いたいと言っている。坊守は同病なので時々見舞いに行く。坊守は、早くいかなないと間に合わないという。それならばと面会に行くことにした。私はお見舞いと言うより面会でしよう。

すっかり痩せてしまい、抗がん剤の副作用で髪の毛は抜け、しょっちゅう、もどしている。一人息子が、つきつきりで看病し処置をしている。

もう何もしてない「ただ待つだけなのよ」と他人事のように話す。

おなかにはガンで圧迫され腎臓が押されると、それで最後になるという。

頭ははつきりしている。まるでもう一人のIさんがいて、病状を客観的に話すみたいだ。

医学が発達し猛烈に痛いと思うが痛さはないという。精神安定剤が効いているのか、死を静かに待つ。

お土産に念珠を持って行き、葬儀はすべて私に任せなさい、心配しなくてもよいと話す。

「お見舞いに食べ物をお願いしたことはあるが数珠をもらったことははじめてです。住職に来てもらい、これで安心した」と念珠を強く握っていた。

この息子は私の教員時代の生徒です。「息子はいいね」と50代になった一人息子ははじめて褒めていた。あと何日待つか息子は寝ないで看病を続ける。

「私は死んでいく」死を自然と受け止

めているとき面会ができる

寺がお見舞いに行くのは難しい。これまでも病人がもう助からないと悟った時、住職に来てほしいといわれたことは何回もあった。今回のように葬儀の相談もあった。小さな阿弥陀様を持参し病室に阿弥陀様を安置することもあった。数珠もあった。念珠を持って亡くなっていく。

Iさんには念珠を持って行った。念珠は息子から母親にしっかりとかけられた。もし息子も同じ念珠を持っていれば、彼岸と彼岸を結ぶ携帯になる。本人もご家族もきつとそんな気持ちになる。これは大発見である。

念珠(数珠)はご先祖への携帯、阿弥陀様の光の中のご先祖の仲間に連絡するのに必要だ。亡くなった後も念珠を通じて話が出来るとなると、数珠の新しい効用になる。

念珠(数珠)は

私と故人を結ぶ携帯

これからは亡くなってからも連絡ができる念珠携帯はお棺の中に入れる必需品

\*\*\*これは私の発案であり一般的なことではない、Iさんのお見舞いで気がついたことです\*\*\*



でも故人との念珠メールはこれから流

行るかもしれない。死に装束を着けるよりもよほどまだ。(浄土真宗は装束はない)どこかの念珠屋さんと共同で作っていきたい。

亡くなるのはいやだと言っても亡くなつていく本人やご家族に、念珠携帯を持たせるのは、これからの発想としてはgoodだろう。

皆さんも念珠を購入して手渡しするといいのですが、念珠は木製の燃えるものではないとお棺に入られない。出国検査をされるようなものだ。金属やプラスチックでは、はねられる。もうひとつ大事なことはご自分も持たないとだめだ。

本堂に置いておくので試してください。ひとつ千〜三千元程度のを置いておきます(浄土真宗では数珠と言わず念珠と言います)

普通のお墓

完成墓地の紹介

二タイプあります。土地と墓がついた価格で、二百万円と二百五十万円です。ご希望される方は、寺までお申し込み下さい。



左が 200 万円  
右が 250 万円

### お彼岸アルバイト募集

9月23日(お中日)9時から4時まで7000円 16歳以上の方、希望される方は03-33326173 37までお電話ください。10名で締め切ります。

### 延浄寺の集い

歌声 9月26日(金)10:30~12  
健康体操 9月18日(木)10:11時  
飲んで語る男性65以上の会(つまみを2品以上お持ちください)

9月17日(水)17~19時

以上、ご自由に参加して楽しんでください。そのほか生け花、絵手紙と、寺の主催ではありませんがカラオケ教室があります。

### ダバオの日本祭りに参加されませんか

ダバオツアーを10月6日(月)~12日(日)の6泊7日で行います。費用は17万5000円です。

ダバオ市内見学・日本祭り・リコーダーコンクール・盆踊り、イロイロ市訪問、現地での日程はかなり自由がききます。

ゴルフを希望される方、貧しい農家や山の学校を訪問したい方などガイド代・車代等別途かかりますが実施できます。滞在延

長も可能です。詳細は事務局03-5384-9536 中井までお問い合わせください。

### 青年海外協力隊(POCV)の受け入れ



### 老々介護でお困りの方は

日本フィリピンボランティア協会(事務局 局左下)では日本の在宅介護を支援するためにフィリピン版青年海外協力隊をダバオで結成しました。

来日し介護のお手伝いもできます。3ヶ月で帰国しますが、介護関係でお困りの方は事務局へ相談ください。月17万円程度の経費が必要です。

### ダバオでショウトステイの受け入れ

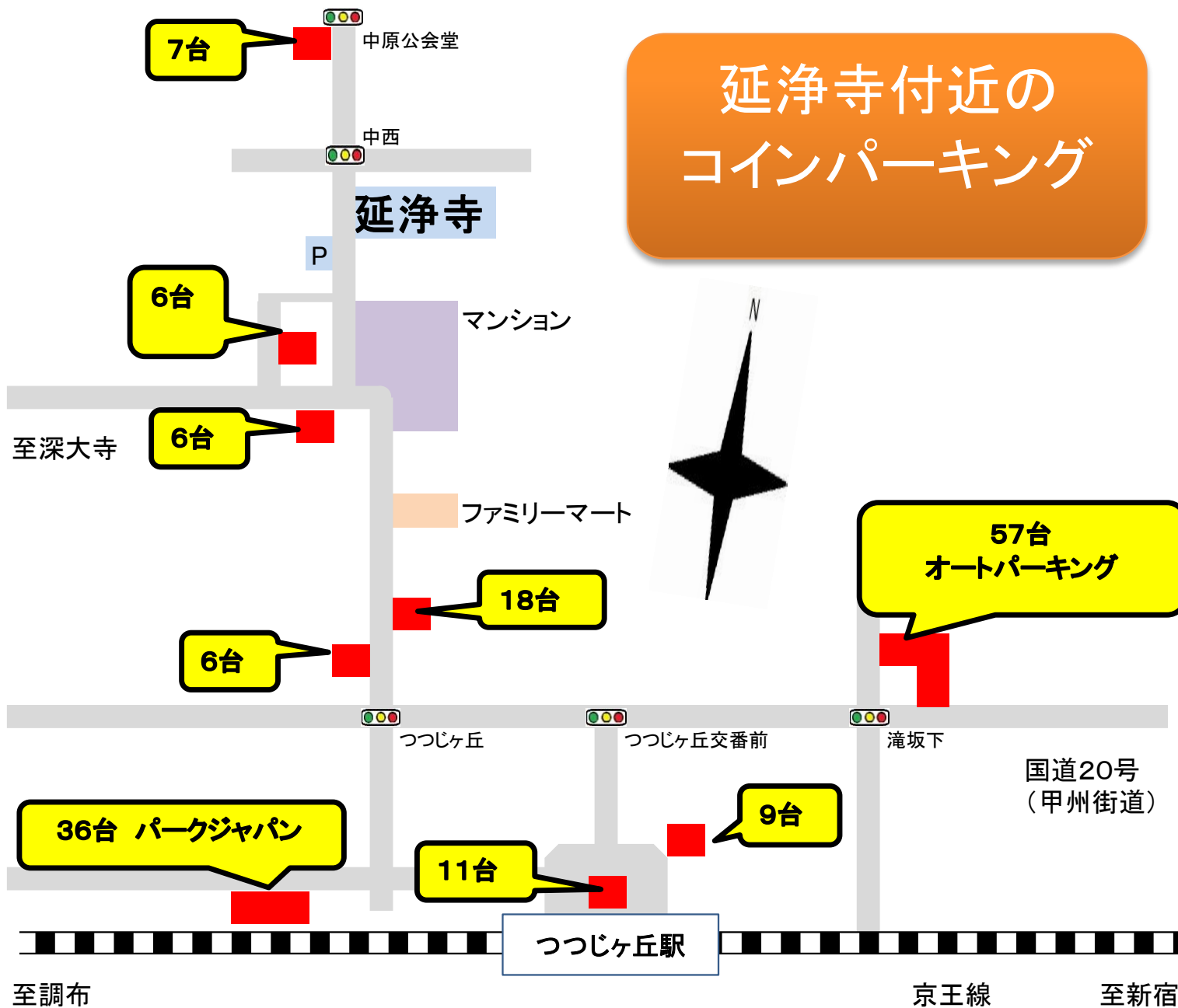
#### 在宅介護で大変な方

日本フィリピンボランティア協会ではドミトリ(協会宿舎)を改修し介護の必

要な方を受け入れていきます。1ヶ月でも2ヶ月でも結構です。滞在費は1ヶ月6万円が基本料金ですが、ダバオへの送迎が必要です。家族の方か本人をよく知っているヘルパーが同行すること

なりますが、これと(POCV)を組み合わせるのも一つの方法です。関心のある方は日本フィリピンボランティア協会までお問い合わせください。

### 延浄寺付近のコインパーキング



至調布

京王線

至新宿